

日本一の水源の郷をめざす道志村



川原畑お祇園まつり神楽舞

写真提供: 佐藤 睦さん

- 議長あいさつ 2
- 一般質問 (これが聞きたい) 3~11
- あの一般質問は・今 (野原・月夜野間バイパス化は) 14
- 紹介／がんばる人紹介 15~16

理想の郷土建設に議会が一致団結

村議会議長 水越 茂 広



早涼の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

議長就任にあたり一言ご挨拶をいたします。

5月に新しい議員の誕生があり、議員各位のご支持を頂き議長に就任出来ました事は、光栄の極みであります。

現在、道志村政を取り巻く環境は厳しく、目前に迫った超高齢化社会への対応はもとより、行財政改革・経済の活性化は急務であると思えます。

このように村政厳しい時に議長という重責を担うことになりましたが、村民のご要望を、公正、かつ厳粛に受け止め村民の負託に応える議会の代表者として、その責務を全うしてまいります。

国内の情勢は、昨年の東日本大震災の影響もあり長引く不況から脱却出来ず、さらに、消費税の増税や電力料金の値上げ等が計画されており、私たちの生活をさらに圧迫してきます。

このような状況下ではありますが、私共議会は一致団結して村民の生活基盤の向上と、道志川を中心とする自然環境の保全等に積極的に取り組み、理想の郷土建設に邁進して行く所存でございます。

どうか、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致しまして議長就任の挨拶とします。

新しい議会構成

●正副議長

議長	水越 茂 広
副議長	山口 力



議会議員研修をおこないました

●委員会

委員会名	委員長	副委員長	委員		
総務文教常任委員会	出羽 和平	佐藤 定三	杉本 秀明	長田 達義	大田 博文
建設厚生常任委員会	山口 博康	大田 博文	池谷 高明	山口 勝也	佐藤 定三
広報常任委員会	杉本 秀明	山口 力	出羽 和平	佐藤 定三	
議会運営委員会	長田 達義	山口 博康	出羽 和平	杉本 秀明	

美しい景観づくりと その継続について



山口 勲副議長

問

- あじさいの維持管理について
- 花いっぱい活動への支援について
- 名所となる景観づくりについて
- 景観の維持、継続について

答

- ▼ 維持管理が可能か検討
- ▼ 水源基金や新たな支援を検討
- ▼ 現在、候補地を調査、検討中
- ▼ 可能な支援体制を検討

問 あじさいの管理は

数年前、国道413号線沿いに「あじさい」を植えたが、その後の維持管理体制は。

答 村長

花いっぱい活動への団体支援については、「水源基金」や「新たな支援」など支援、推進する方向で検討していきたいと考えています。

答 村長

国道沿いの「あじさい」ですが、これまでボランティア的な活動による手入れが主でありましたが、今後どのような維持管理が可能なのか検討したいと思います。

問 花いっぱい活動は

花いっぱい活動に「やっせんべー」のように補助を出して、そういう会を増やしていくような体制はとれないか。

答 村長

名所となる景観づくり

問 名所となる景観は

道志村の山や川の渓谷美をアピールするようにもみじの丘とか山桜の丘とか場所を造って美しい景観を形成していく考えはないか。

問 景観を維持、継続していくには

景観を維持、継続していく体制はとれないか。

答 村長

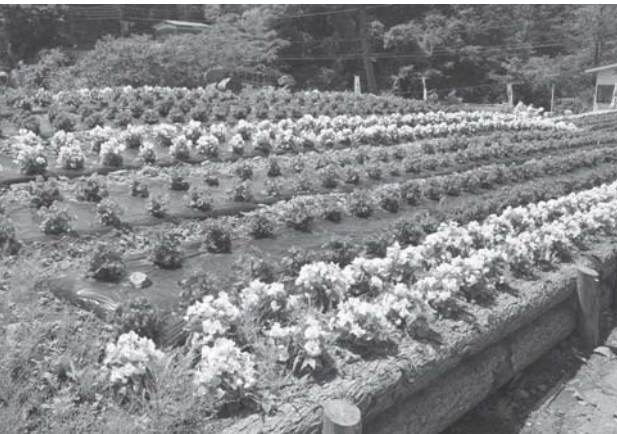
皆で創って行く、この基本軸でどのように支えて行く体制が可能か、検討したいと思っています。

私の抱負

道志村は単独で自立した村としてやっていますが、それを維持、継続していくには、いろいろな課題が有ります。

少子化の問題、若者が定住する為の雇用の問題、結婚・子育て・教育の問題等山積しています。それらを、議会皆で協力し、村民の皆様のご意見、提言などを戴いた中で、「住みやすい、豊かな村づくり」を目指していきたいと思っています。

山口 勲



一般質問
(これが聞きたい)

福祉センターの民営化による利用状況は



杉本秀昭 議員

問

■福祉センターの新たな体制と利用状況は

■今後の村営住宅の建設計画は

答

▼土・日の営業とシヨートステイの実施に向けて検討

▼利用条件の良い補助事業で建設を計画

問 福祉センターの今は

昨年11月に福祉センターが、指定管理による運営体制になった訳ですが、半年が過ぎた現状で、利用状況がどのようになってきたのか。

答 住民健康課長

昨年11月1日より平成福祉会に民営化され運営開始いたしました。

祭日のデイサービスは当初から実施していますが、土・日のデイサービスの希望者はありませんでした。

しかし最近になって少数の希望者があります。シヨートステイにつきま

しては、現在7、8名が村外の施設を利用しています。福祉センター利用者の中にもシヨートステイを希望する方もあり、土・日の営業とシヨートステイの実施に向けて検討しています。次に利用状況ですが、利用契約者は現在38名で、今までの1日最大利用者は18名です。当法人の目標とする1日20名の利用者にならざるには、50名ほどの利用登録者が必要となり、利用者がデイサービスのに対し求めているものを的確にとらえ、サービスに反映し新規の利用者獲得や利用回数の増加等、「道志茶屋」を中心に

村のデイサービス福祉の構築にスタッフ一同一丸となつて取り組んでおります。

問 村営住宅計画は

村営住宅建設が平成22年、23年と2年間で4世帯分、建設された訳ですが、まだまだ村営住宅が必要ではないかと思えます。村当局はどのように考えているのか。

答 村長

村営住宅の建設については、道志村総合計画の定住化対策の中に位置づけられ、若者の定住化のための基盤整備として進めてきました。この総合



計画の目標値であります。20戸は、平成23年の建設により達成しております。現時点では2戸の空室及び村内の空き家の活用に対応し、条件の良い補助事業等を取り入れて建設を考えていきたいと思えます。

「再質問あり」

私の抱負

2期目の重責を痛感しているところですが、1期目で一般質問してきた案件や、継続している案件の審議を重ね今後につなげていかなければと考えています。そして議会の根本である住民の皆様との意見交換、さらに議会自体の改革や、「議会だより」の充実などを中心に自分の目標としている、「頑張る議会」を目指し、道志村のため村民の皆様のためにがんばる所存です。

杉本 秀明

新たな定住対策は



出羽和乎 議員

問

■村づくりの基本理念と
マニフェスト実施状況
■新たな定住対策について

答

▼グリーンエネルギー、産業の活性化、教育・子育て・福祉の充実
▼ホームページを活用した情報発信

問

村づくり基本理念

「村づくり」の基本理念は何か、また、村民に約束した政策施策の実施状況は。

調査しています。

2点目の産業活性化に

ついてですが、主な観光施設については民営化が完了しました。林業については、6次産業的な部分や、観光への連携を視野に入れながら進めま

答

村長

マニフェストの実施状況について、まず一点目、バイオマスタウン構想の策定については、村の将来の循環型社会へ移行するロードマップを平成22年度に策定しました。

景観条例については、規制や規約が多く、景観計画を今年度作成するため委員会をスタートしました。グリーンエネルギーについては、水力や木質バイオマス等について

3点目、教育関係は建物の耐震化はほぼ完了し

ました。子育て支援ですが、今期は学童保育やワクチン接種の無料化を実施します。次に医療福祉

の充実ですが、診療所、ヘルポートの建設、福祉センターの指定管理移行

や、高齢者のお茶飲み会、買物ツアー実施等きめ細かく勧めています。

問

新たな定住対策は

子育て世代を新たに呼び込む方法は。

答

村長

少子高齢化、人口減少問題は本村においても重要な問題です。

昨年度からこの問題に向けて「持続可能な社会」の在り方を議論し多くの提言をいただいた。

首都圏に近いこの地の利を生かした取り組みを進めていきたい。

答

総務課長

村も危機感を持って様々な対策を行っています。

結婚相談所の開設、若



者定住住宅の整備、中学生以下の医療費無料化、高校生への就学助成金の増額等子育て支援にも積極的に取り組んでいる。

道志村の素晴らしいところ、住みやすいところなど、もっと積極的に情報発信していくよう、ホームページなどを活用する検討をしていきたいと考えています。

「再質問あり」

私の抱負

これからの道志村は、ますます少子高齢化が進み、コミュニティの維持が難しくなり限界集落の増加が懸念されます。

人口減少に歯止めをかけ、一定の人口を保つことが経済の面から、また、地域を活性化するために必要です。

住みやすい村、住んでみたい村づくりをさらに進めると共に、道志村に住んでみたい人たちを呼び込むことを考えていきます。

首都圏に近く、日本一の水源の郷を目指すことで、必ず将来的に注目されるはずで。

ポイントは情報発信です。

定住化対策に積極的に取り組んでいきます。

出羽 和乎

一般質問
(これが聞きたい)

台風災害 その後の状況は



佐藤定三 議員

問

■台風及び大雨による道志川
河川敷の改修工事、各地の
沢の現状等について

答

▼災害復旧工事と防災対策を
推進

問
災害復旧状況は

昨年の台風及び大雨により、道志川河川、沢が荒れかかなりの被害が発生しました。現在の復旧状況

は、山梨県が実施している工事の工期が7月末で、残りは10月発注、11月着手予定になっております。

と二次災害の恐れのある箇所等の把握が出来ているかお答えください。被害のある近隣の住民は心配しております。当局では、今後どのような対応を考え改修を進めて行く予定ですか。

道志村の実施工事は林道4件、村道1件、河川が2件であり、施工中の小室久保を除き完了しております。

答
産業振興課長

昨年の台風等の災害は余り例を見ない大きなもので、道志川及び支流(沢)が増水して護岸の決壊、河川の洗屈等の被害が発生しました。

また、これらの復旧工事以外に村単独事業において、村内の各地区からの情報等により危険性、緊急性を考慮した上での復旧も行いましたが、この他にも地区からの要望、村の確認により災害防護等の必要な箇所もあります。災害の無かったような

地域におきましても、防災施設の必要な地区もあり、今後関係部署と協議し、防災対策を進めていきたいと考えています。

「再質問あり」



私の抱負

昨年の台風12号、15号の被害が多く、村内の至る所で復旧工事が行われています。

今年も台風4号の影響で2次災害の恐れのある箇所が多くあります。村当局と一緒に危険箇所を優先に順次復旧を進め、村民の皆様の安全、安心に勤めて行きたいと思っております。

また、村民の皆様も常に考え、心配している少子高齢化、過疎化など多くの問題がありますが、基本的には人口の減少が1番の問題と考えます。今後はUターン、Iターンによる定住人口の増加について、各議員と一緒に考えて行きたいと思っております。

皆様のご意見を頂きながら、村づくりに貢献したいと思っております。

佐藤 定三

児童・生徒の 安全対策は



山口勝也 議員

問

■小学生・中学生の交通安全対策について
■上中山(三ヶ瀬)地域の水路について

答

▼通学路の危険箇所を特定し安全対策を図る
▼村道と一体的に拡幅を確保した水路改修を検討

問 通学路の安全確保

1. 最近児童の列に車が突っ込むなど、大変な事故が他県で発生しています。本村の児童はバス通学なので危険は少ないと思いますが、他に交通安全対策があるか。

2. 道坂で現在小学生6人がバス通学しています。通学道路は橋が狭いため、危険の少ない場所にはバス停を移動する考えがあるか。

答 教育課長

1. 本村の児童・生徒は、登下校にスクールバスを活用しておりますので、バスに乗車してからは安全という視点で考えています。今後通学路の調査等を実施し、危険箇所を特定しまして、順次安全対策を図って行きたいと考えています。

2. 道坂地区のバス停について、地区入口はカーブであるために現在直線部分で乗降していると思われますが、スクールバスはバス停以外での乗降も可能でございますので、委託会社と協議しながら検討したいと思えます。

問 水路の改修

三ヶ瀬地域の水路が小さい為、大雨などで水路が詰まり水があふれて道路や人家の庭に流れて来ている。

答 産業振興課長

今後水路を大きくする改修予定はありますか。

本水路におきましては、平成15年度に横断側溝の改修、平成22年度にヒューム管を敷設する改修を行っておりますが、水路の勾配が緩いため上流からの土砂や枯葉・ゴミの流入により水路が詰まるのが原因で水があふれることがあります。

昨年台風等による土砂等の堆積については、村で対応しました。

また、水路の改修予定ですが、この水路は村道の



の土留ブロックの上を通っているため改修を行うには、村道と一体的に拡幅も考えた改修が必要と考えます。改修には多額の事業費が見込まれますので、国、県の補助制度を活用した事業で執行できたらと考えます。

「再質問あり」

私の抱負

私は、6月の定例議会会で、2点質問しました。内容については、上記の通りです。今後も不慣れですが皆様方の声を聴きながら住民と行政の橋渡し役として、公平、公正な気持ちで精一杯取り組んでいきたいと思っています。

現在、道志村では、少子高齢化、過疎化などの問題を抱えています。児童生徒数も本年度131名と減少の一途をたどっています。

歯止め対策は、大変難しい課題ではあります。毎日暮らしやすい村づくりを目指して、議論を重ねていきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

山口 勝也

国道のバイパス化 今後の取り組みは



山口博康 議員

問

■国道のバイパス・トンネル化について
■土砂崩落防止について
(中神地)

答

▼地域住民の理解を得て
早期完成をめざす
▼新たな防災対策事業を要望

問

トンネルの進捗は

野原・月夜野間のバイパスとなるトンネル化の進捗状況及び24年度の取り組みについて。

問

土砂崩壊防止

す。

答

村長

このバイパス化整備促進活動の経緯としましては、

- ①測量、土質調査、予備設計
- ②事業評価委員会に改良計画を図る。
- ③県議会において、野原バイパスの事業化を説明

答

産業振興課長

中神地周辺の土砂崩壊の防止策として、急傾斜対策のコンクリート擁壁等が必要と考えますが、村の対応は。

- ◎18回の地区説明会の開催
- ◎請願書を採択し、山梨県知事に意見書を提出
- ◎山梨県知事に陳情を行う。

- ◎県が調査を開始し、バイパス(トンネル)のルート案が示され、大渡地区、月夜野地区住民
- ◎以上、経過説明と今後の取り組みとなりますが、早期完成へ向けてのご協力をお願いいたします
- ◎議決後に路線認定の告示
- ◎村道の路線認定を議会に提出

コンクリート擁壁による防災工事の検討も要望しましたが、土砂災害危険地に指定されるほどの急峻な地形ではないために困難であるとの回答でした。

現在、村内の各所の危険箇所について、山梨県の実施する事業である、災害対策整備事業におい



て農村集落を守るよう防災対策を要望しているところでです。
「再質問あり」

私の抱負

今までの経験を生かして、もう一度社会のお役に立ちたいと決意しました。社会ではコンクリートから人へと変わっていきませんが、本村はこの地形上、農・林道の整備、急傾斜地対策、並びに国道・県道の更なる改良が必要と考えます。

特に、月夜野・野原間のトンネル化については、大型バスに敬遠されがちな、難所の解決につながることに、首都圏に居住する約4000万人の観光客の誘致、通勤・通学者の利便性の向上と、都市との交流による経済の活性化に努力します。

また、本村は多くの居住地が急傾斜地にあり、昨年の台風により神地区の災害については普及工事を促進し、村民が安心して暮らせる地域づくりに努力します。

山口 博康

国道413号と村道改良について



長田達義 議員

問

- 漁業問題について
- 福祉施設の建設について
- 国道413号の改良について

答

- ▼ 漁協と連携し調査を行う
- ▼ 補助金制度もなく難しい
- ▼ 引き続き関係機関に要望する

私の抱負

私は地域の会合で話し合った、次の3点について6月定例議会で一般質問をいたしました。

- ・ 漁業問題について
- ・ 福祉施設建設について
- ・ 国道の改良について

問

漁業問題について

いま道志村と漁業組合の関係はどうなのか、また、鮎の育ちにくい原因はなにか。また、村は組合に対して、助成金か支援金等の対策を考えているのか。

答

産業振興課長

過去には、漁協会館の建設等、補助金を交付して支援を行ってきました。

現在は、管理釣り場である、道志川溪流フィッシングセンターの指定管理者として管理運営をお願いしています。

次に、鮎の育ちにくい原因ですが河川状況等様々な原因が考えられます。

問

福祉施設の建設は

すが確たる原因はわかりません。今後も、必要に応じ漁業組合と連携し、調査を行ないたいと思います。

問

国道413号の改良について

雇用面から考えて、村では、福祉施設の建設計画があるのか。また、県や横浜市と提携した施設の設置ができないか。

答

村長

現在、施設の新たな建設計画は補助金制度もなく難しいものと考えます。また、県や横浜市と提携した施設の設置については、道志村は、入所申込者が少なく建設計画にはありません。

問

産業振興課長

国道413号から、岩瀬・大久保地区への村道入口と国道の拡幅改良について、今後の計画は。

問

国道413号の改良について

本村でも、地域密着型老人福祉施設を検討しましたが、本村の高齢者しか入居できないため、介護保険料の増大がみこまれます。また、多くの高齢者本人は、在宅で生活をしたいと考えており、老人福祉施設を考慮する時期ではないと考えています。

は非常に見通しが悪く危険な箇所です。地形上の厳しさにより、工費があまりにも大きく現在まで実施されていません。

村でも、危険性が高いと考えますので、今後とも国道413号の改良と併せて、引き続き関係機関に要望を行っていきます。「再質問あり」



村道戸渡く谷相線と国道413号との交差部分

さらには少子化、住宅、子育て、結婚問題などに取り組んでいきます。本村がこれから推進しようとしている「持続可能な村づくり」につながればと思います。村民の皆様のご協力をお願いいたします。

長田 達義

一般質問
(これが聞きたい)

観光振興事業の現状と今後について



池谷高明 議員

問

- 観光振興計画は
- 観光セールスマンの配置は
- 観光施設をまとめて設置
- 道志体験農園は

答

- ▼官・民の連携を強化して
- ▼観光事業者との連携で対応
- ▼施設配置は慎重に検討
- ▼利用率50%強を推移



私の抱負

東日本大震災にて防災意識の高まりの中、地震発生時413号は寸断の恐れがあります。孤立を最小限に防ぐためにも、林道、農道などの迂回路の整備が必要です。

また、観光立村を掲げた村としては隣接する観光地富士五湖への単なる通過点ではなく、目的は道志村でなければなりません。

そのためにも自然を生かした誘客対策を進めることが必要です。

少子高齢化の中、空家が多くあります。

自宅で仕事ができる人に利用してもらうことが望ましいと考えます。

昔ほどこの集落にも元気いっぱいの子供達の声がありました。そんな村づくりができればと願うところです。

池谷 高明

問

観光振興計画は

村で観光振興を進めている中で、今日までどのような振興事業がされてきたか、また、今後どのような計画があるのか。

答

産業振興課長

各平成17年に「観光立村」を掲げてから今日まで、様々な観光振興事業を行ってきました。

平成23年度に村内の観光に関連する企業、村民、団体、行政が協働し、「道志村官・民連携観光マネジメント戦略計画」を策定しました。平成24年度を初年度とする5年間の計画となっています。

問

観光専門職員の配置は

今後は、官、民の連携を強化しての観光振興事業を一層進めていくことを考えています。

答

村長

道志村周辺の大都市にコンタクトが容易にできる観光セールスマンとしての、専門職員を配置し、観光振興を推進することができないか。

現在、主に観光振興を担当する職員が1名と、また、「道の駅どうし」の指定管理者である「株式会社どうし」に1名の職員を出向し、村内の観光施設、観光事業者との連携を強

問

観光施設をまとめて

化しています。専門職員の新たな配置については、厳しいものがあります。

答

産業振興課長

道志は長い村であり、広範囲に観光施設を設置するよりも、道の駅周辺にまとめて設置したほうが、効果が高いのでは。

細かい村であり標高差も村内で約500mあるため、村内全域にバランスよく拠点となる施設を配置しないと、多岐にわたる観光客の需要に対応できません。施設の「一極集中配置」と「バランスの取れた配置」を慎重に検

問

道志体験農園は

討していく必要があると思います。

答

産業振興課長

道志体験農園の利用状況ですが、平成18年頃より約50%強の利用率で推移しており、全盛期の半分となっております。

また、遊休農地の貸農園化ですが、農家が農地を貸し出すには、農地法による規制があります。「再質問あり」

一般質問
(これが聞きたい)

福祉センターの デイサービス事業は



大田博文 議員

問

■福祉センターのデイサービス事業の状況について

答

▼創作レクや機能訓練などに特に力を入れる

問

デイサービス事業の状況について

福祉センターのデイサービス事業は、民営化になり以前に比べて充実していると思うが、その後はどうか。また、利用者は満足しているのか。

答

住民健康課長

利用者も4月から徐々に増加しており、施設内のサービス提供は機能訓練も取り入れ利用者自身も大変喜んで訓練をしています。介護度の軽い方は車椅子の使用を徐々に減らし、歩行訓練を取り入れ、機能回復への意識を変えていく必要があると考え、また、ケアマネー



ジャー、利用者や家族との連携を強くして、本人の機能を保つ支援を目指しています。

日中の活動の中でも創作レクや機能訓練などには特に力を入れており、利用者の人たちが、生まれ育った道志村にこれからも暮らしていけるように、リハビリ運動、認知症の進行を遅らせるような頭の体操など、思考をこらして行なっています。

施設は、明るい雰囲気があふれています。笑顔が絶えず、明るく、利用者の皆さんにスタッフは「家族だ」と思っていただけのような人間関係の構築にも力を注いでいます。

従業員の介護状況については、当初失敗もあり、利用者に迷惑を掛けましたが、数カ月が過ぎ職員は、数カ月が過ぎ職員の介護技術も向上してまいりました。第2土曜日を内部研修の日と定め、本部からの指導者により、さらなる介護技術の向上を学んでいます。

りのない回答が目だったようです。

改まった聞き取りよりも、普段介護スタッフが感じ取れる利用者の感情や感動を大切に、本人や家族が安心して預けられる施設を目指します。

「再質問あり」



顧客満足度に関しては、アンケート調査を実施しましたが、本心には触れられず、当たりさわ

私の抱負

この度、私は道志村議会議員に当選をさせていただきました。これもひとえに地域の皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

私は納税者の代表として、今道志村が活気のある政策作りを目指して多様な政策に取り組んでいる中で、道志村の将来のために、住民と協働しながら不撓不屈の精神で多様化する住民のニーズにこたえるよう行政と連携しながら、村の発展と理想の村づくりに努めていきたいと思えます。

大田 博文



議案の質疑

H24年 第5回議会定例会（6月）

提出された案件について、議員からの意見・要望の一部を紹介します。

行政視察からひとこと！

- 「道志の湯」では、バイオマス構想の一環として重油から薪ボイラーに替えましたが、新たな問題として煙、臭いが発生し、風向きによって付近の住民の皆さんに迷惑をかけています。
そこで、ボイラーに排煙装置を付けることになりましたが、設置効果は！

- Q：・「道志の湯」薪ボイラーに排煙装置を設置する前に解決することがあるのでは？
- ・雨ざらしの薪はこれでいいのか（屋根が必要では）？
 - ・薪の購入からボイラーに投入するまでの適切な乾燥期間の見極め？
 - ・ボイラー設置後、間がないのに問題発生・・・メーカーに責任は？
 - ・排煙装置の設置効果は？（効果を確認する）
 - ・もっと潜在的な問題があるのでは？ランニングコストが気になる
- 以上の観点から、先に1台設置して効果を確認することを提言します。

- A：指摘の件について、薪の保管について雨対策を検討します。
排煙装置については、効果を確認してから発注するよう検討します。
煙、臭い対策として効果的な燃焼及び温度管理など指定管理者とも相談し、問題解決に取り組みます。

この煙突からの「煙・臭い」が新たな問題に！



薪ボイラー機5台設置



奉仕活動

道志峠を 清掃作業する

村議会議員は、6月議会定例会が終了した、26日の午後、山伏峠と道坂峠の清掃作業を行いました。この日は、大田村長と佐藤教育長も参加し、清掃作業に汗を流しました。議会では、今後も奉仕活動を行うこととしています



山伏峠の
清掃活動

議案等の審議結果

H24年 第4回道志村議会臨時会（5月16日）

議案等番号	件名	審議結果
議案第30号	道志村の議会の議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例	可決
同意第1号	道志村教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	同意
同意第2号	道志村監査委員の選任につき同意を求めることについて	同意

H24年度 第5回道志村議会定例会（6月19日～26日）

議案等番号	件名	審議結果
報告第1号	平成23年度道志村一般会計繰越明許費繰越計算書	—
報告第2号	平成23年度道志村浄化槽事業特別会計繰越明許費繰越計算書	—
議案第31号	道志村暴力団排除条例	可決
議案第32号	道志村税条例の一部を改正する条例	可決
議案第33号	道志村印鑑条例の一部を改正する条例	可決
議案第34号	道志村住民基本台帳条例の一部を改正する条例	可決
議案第35号	道志村すこやか子育て医療費助成金支給条例の一部を改正する条例	可決
議案第36号	道志村地域農政整備事業に係る設置及び管理条例の一部を改正する条例	可決
議案第37号	平成24年度道志村一般会計補正予算（第1回）	可決
議案第38号	平成24年度道志村国民健康保険特別会計補正予算（第1回）	可決
議案第39号	平成24年度道志村簡易水道事業特別会計補正予算（第1回）	可決
議案第40号	平成24年度道志村介護保険サービス事業特別会計補正予算（第1回）	可決
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について意見を求める件	可決

議会活動

新しい議会議員と村長 横浜市表敬訪問する

平成24年5月13日に就任した議会議員と村長は、6月議会定例会が終了後の6月29日に横浜市を表敬訪問いたしました。当日は、午前中から水道局をはじめ、地球温暖化対策本部、こども青少年局、政策局及び教育委員会の部局長など幹部と面談し、道志村との連携や支援策について意見交換を行いました。会談の中では水源地道志

村の自然エネルギー活用や道志村への横浜市民の誘致について、特に活発な意見交換がされました。午後の最後には、議会局を訪問し佐藤議長と川辺副議長との会談を行いました。それぞれの部局において、今後もますます友好交流による相互の活性化が図れるよう意見交換を行いました。



横浜市の部局長との意見交換





あの一般質問は今…

平成24年3月定例会

★**質問**

景観形成について

答弁

23年、24年、25年で
景観計画策定

平成23年9月定例会

●**質問**

不妊治療についての
運用は

答弁

23年4月より助成制度
を設立しました

その結果 **今は**

平成24年3月に審議会を開催し基本方針を検討しました。24年度で景観計画（現案）を検討し、25年度で景観計画を策定し、その後、景観条例の制定を検討します。



景観計画についての説明会

23年度は数名の利用者がございました。
「補助金制度は年2回まで補助金を受けることが出来ます。山梨県の補助金制度と併用して受ける事が可能です。」

議会の考え

- ★ ■ 議論を十分重ね、道志村にあった景観条例を検討すべきと考える。
- ■ 少子化を思い、補助金の値上げも検討すべきと考える。



皆さんもご存知の通り、近年、中山間地域の過疎化や高齢化、里山の荒廃などを背景に、鹿、猪による農林業への被害、また熊による生活環境への被害等が全国的に深刻な問題となってきています。野生動物の生息数を適切に管理しつつ、自然を守り、農作物等の被害の防止や地域の安全、安心を守るためには、私たち狩猟者をはじめ、治する担い手の確保や育成が必要になってきます。しかしながら狩猟免許の取得者、保有者は高齢化と同時に年々減少を続けています。このままでは、自然と人との暮らしが守れなくなるといっても過言ではありません。こうした実情から猟友会としても、時代の変化や組織としての危機感をもっているところです。

猟友会では、毎週日曜日に県・村からの依頼により管理捕獲を行っております。また、年間を通して有害駆除も行っており、自然環境の保全や農作物等の被害防止に努めているところです。

今後とも、村民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

□ おもな年間活動紹介 □

- 4月 射撃大会 (都留市制祭)
銃砲一斉検査
管理捕獲開始
- 5月 トレイルレース協力活動
- 6月 射撃大会 (道志村猟友会)
射撃大会 (銃砲保安協会)
- 8月 射撃大会 (南都留地区)
- 10月 放鳥
管理捕獲終了
- 11月 射撃大会 (東部猟友会)
狩猟期間開始
狩猟安全パトロール



猟友会供養碑

紹介 しょうかい 猟友会



道志村猟友会 会長 山口 米 一
猟友会事務局 (道志村商工会内) TEL 52-2353

病気を予防する医療が重要

今年度より道志村診療所へ赴任し、はや数ヶ月が経とうとしています。昨年度まで勤務していた都留市立病院と診療内容も異なるため最初は戸惑うところもありましたがようやく慣れてきたところです。病院に勤務していた時は毎日のように入院患者さんが入れ替わり治療を行っていたのですが診療所ではもちろんそういった治療は行うことができません。したがって以前までは重症患者の治療をすることがメインのスタンスであったのですが診療所においては軽症患者に対する治療はもちろんですが病気を予防する医療が重要ではないかと感じています。



診療所 所長
山崎 玄蔵 医師



例えば子供たちの予防接種がいい例なのですが、当診療所で行うことができなくなった場合にはわざわざ都留市、富士吉田市などへ赴かなくてはなりません。行政サービスの一環ではありますが医者がいなくてはできないことですので非常に重要なのです。

どれくらいの期間こちらでお世話になるかはわかりませんが前述のようないわゆる予防医学について少しでも皆さんに貢献できれば幸いです。

写真募集中(議会だよりに掲載させていただきます。)

広報常任委員会
委員長 杉本 秀明
副委員長 山口 力
委員 出羽 和平
委員 佐藤 定三

編集後記

風薫る5月、新人議員9名と2期目の議員が1名という議会が誕生しました。

6月議会定例会では議長をのぞいて、全員が一般質問を致しました。また、議員各自がこの度の立候補するに到った気持ちを表したいとのことで、「一般質問」と「私の抱負」という形で今回の「議会だより」を作りました。

はじめて取り組んだ広報ですが、皆で試行錯誤しながら作りました。今後は、一層努力して益々充実したものにして、皆様に親しまれ、愛読されるよう願って、編集後記とします。

(山口 力)